

## 世界の学校視察報告と座談会

茅ヶ崎方式も前期が終わる(土曜日のクラス以外)この時期に、世界の学校視察報告をさせていただきます。合わせて、ご質問をお受けし、皆様のご意見をお伺いするいい機会ですので、座談会を行ないます。

日時 : 9月29日(金)12:30~1:30頃 (要:申し込み)

会場 : 津田沼校 (お茶とお菓子で楽しいひと時を) 講師: あぜりあ校長 勝山ひとみ

**土曜日 17:00 茅ヶ崎 C1 クラス休止**  
9/30(土)を最後に土曜日 17:00 茅ヶ崎初級クラスを休止致します。

## TOEIC・IP を津田沼校にて開催

社会人、大学生を中心に TOEIC 公開テスト受験者が増加の一途を辿っています。12月から TOEIC を主催する ETS は Speaking Test と Writing Test をセットにした新たなテストもスタートさせます (一般受験者は1月の試験から)。

TOEIC・IP テストは昨今、企業や大学等が内部で試験を実施するケースが目立っています。未経験の方、定期・不定期で受験されている方、腕試しに一度受験されてはいかがですか?

開催日時: ①11/10 (金) 15:00~17:00 ②11/11 (土) 18:30~20:30

会場 : あぜりあ津田沼校 費用 : 4,000円

受付 : あぜりあ津田沼校 伊藤 締切日: 10/6 (金)

## 翻訳という仕事(佐々田先生体験記)

こんにちは。アゼリアに通っている皆様の中にも英語を使った仕事に興味をお持ちの方も多いのではないかと思います。英語を使った仕事といってもいろいろありますが、今日は特に私が多少経験のある翻訳という仕事について考えてみたいと思います。翻訳という一般の人がすぐ思いつくのはハリポッターのような文芸本の翻訳や映画の字幕翻訳などではないでしょうか。しかし実際に職業として翻訳をやっている人の大部分(恐らく9割以上)は、出版や映画ではなく、いわゆる「産業翻訳」とされる企業の経済活動により直結した分野に従事していると思われます。よく言われていることですが、産業翻訳の代表的分野には以下のようなものがあります。

### ①特許翻訳

産業翻訳の中でも特に仕事が安定的に存在する分野です。日本企業(特に製造業)がテレビ、車、産業機械などで新たな技術を開発しますと、競合他社がその情報を入手して模倣することのないよう一刻も早く特許(patent)を取らねばなりません。日本で特許を取るだけでは、外国企業に技術を盗まれてしまう危険もありますので、特許申請書類を翻訳して外国で特許を申請するのです。ですから翻訳業務としては大半が日英翻訳で、その内容も非常に法律的で厳密なものが要求されるようですが(友人によると冠詞一つ間違えるだけで特許侵害の口実を与えてしまうようです)、反面あまり文章の流れやバランスまでは要求されないようです。

### ②金融翻訳

金融といっても銀行・証券・保険など色々な分野があり、内容も金融ニュースやアナリストレポートなど文章としての読みやすさが重視されるものから、契約書や会計・監査関連のような法律的な文書まで多岐にわたります。比較的英語のできる人が多い業界ですので、社内で英語のできる人が他の業務と兼任で担当する場合もあるし、大手だと専属の翻訳部門を持つ場合もありますが、どちらにせよインハウス(社内翻訳者)が多く、在宅フリーランスはそれほど多くはないのかもしれない。

### ③医薬翻訳

この分野のことを私はよく知らないのですが、医薬品や医療技術などの翻訳は常に一定の需要が存在するにもかかわらず、そうした専門知識を持つ医者や薬剤師などは英語ができても翻訳まで手が回らないので、良質な翻訳者が常に不足しているようです。特にこの分野の日英翻訳を翻訳会社に外注した場合は最も高い単価(通常一文字あたりの価格で決められる)をチャージされるといわれています。

### ④ローカライズ

これはコンピュータ関連のソフトウェアやハードウェアの日本語版マニュアルを翻訳するものです。我々が日常で使用するソフトウェアはマイクロソフトやアドビのように米国で開発されたものが多く、これらの日本語版を出すのに大量の翻訳作業が必要となります。仕事自体は豊富に存在し、比較的その業界に経験の少ない人でも翻訳者として参入しやすい分野ではありますが、反面単価は安めに設定されてしまうことが多いようです。またソフトウェアのマイナーなバージョン変更などで部分的に新たな翻訳が必要になることも多く、そうした場合に過去の翻訳メモリを簡単に引き出せる Trados というソフト(安いので8万円程度する高価なソフト)を使うのがこの業界の標準になっているようです。

以上駆け足に説明いたしました。もしこういった産業翻訳を目指すのであれば、英語力もさることながら、それ以上にそうした業界独自の専門知識を得ることが重要になります。たとえ TOEIC や TOEFL で満点近くとれるような人でも、日本語で読んでも全然わからないような文章は英語に翻訳できません。私も金融翻訳を始めたばかりの頃、「レシー」というカタカナを人の名前だと勘違いして大恥をかいたことがあります。本当は Lessee (=リースの借手) のことだったので。また英日の場合は日本語としての表現力(文学的な意味ではなく、こねた業界用語を散りばめてそれらしい文章が書けるか)も英語力と同じくらい重要になります。あともう一つ大事なのは、常に誰が翻訳を読むのかを念頭に置いて、それに合った訳し分けができるようになることです。法律的な文章では訳文自身が自然な文章であるかよりも、原文に忠実であるかが重要になるでしょうし、訳文自体が一般の人に読まれるものならば、むしろ「原文が透けてこない」訳文が好まれることになるでしょう。

翻訳には英語力以外にもいろいろな能力が必要となりますが、アゼリアでやるような全般的な英語力が無駄になることは決してありません。皆様が翻訳という仕事に少しでも興味を持っていただけたら幸いです。